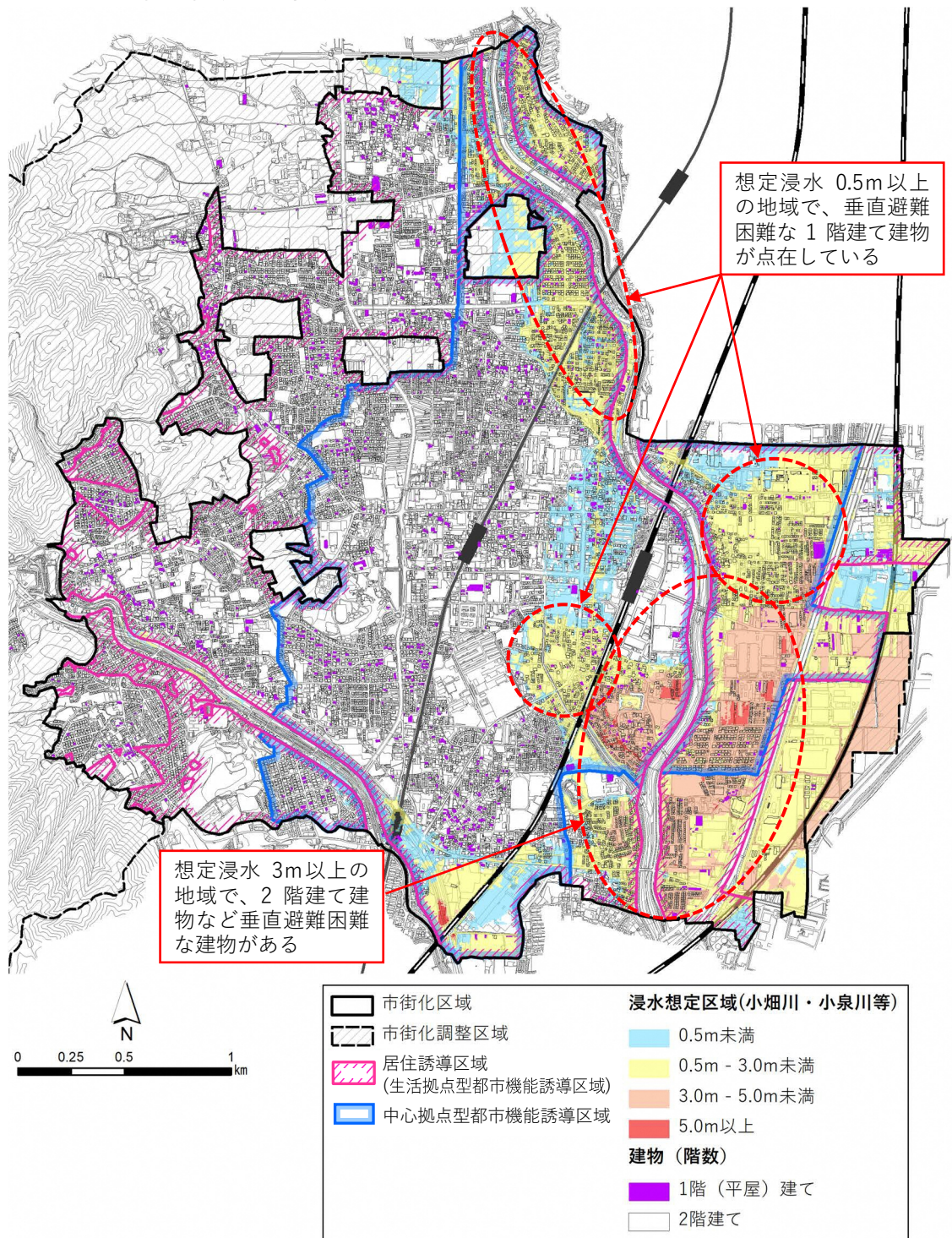


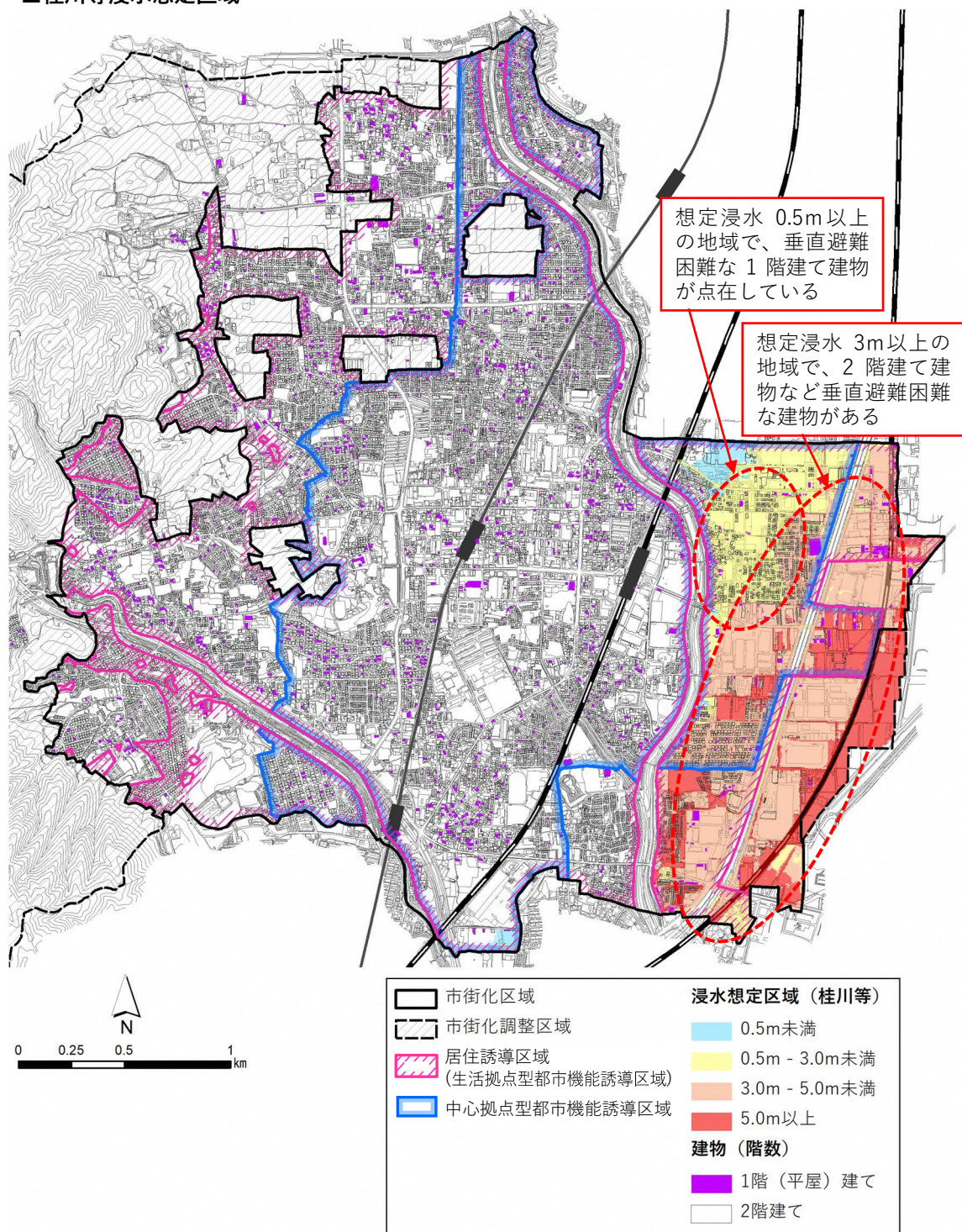
浸水想定区域（想定最大規模）× 建物分布（階数）

- ・ 浸水想定区域内には 2 階建て以上の建物が多いものの、1 階建ての建物も点在しています。
- ・ 浸水深 3.0m 以上が想定される区域において、想定される浸水深に比べて階数が低い建物が多く立地しており、建物内での垂直避難が困難になることから、早期避難等の対応が求められます。

■小畑川・小泉川等浸水想定区域



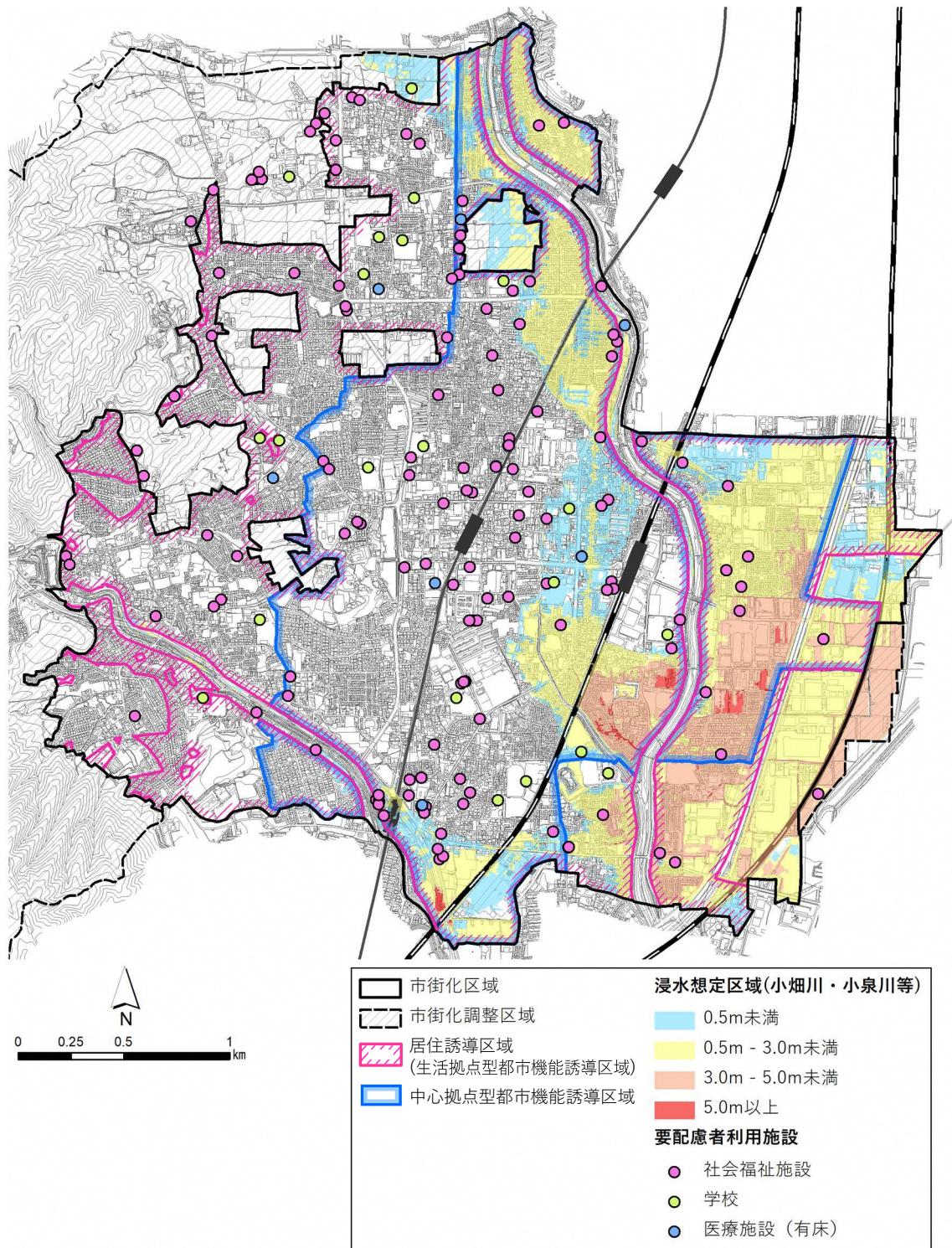
■桂川等浸水想定区域



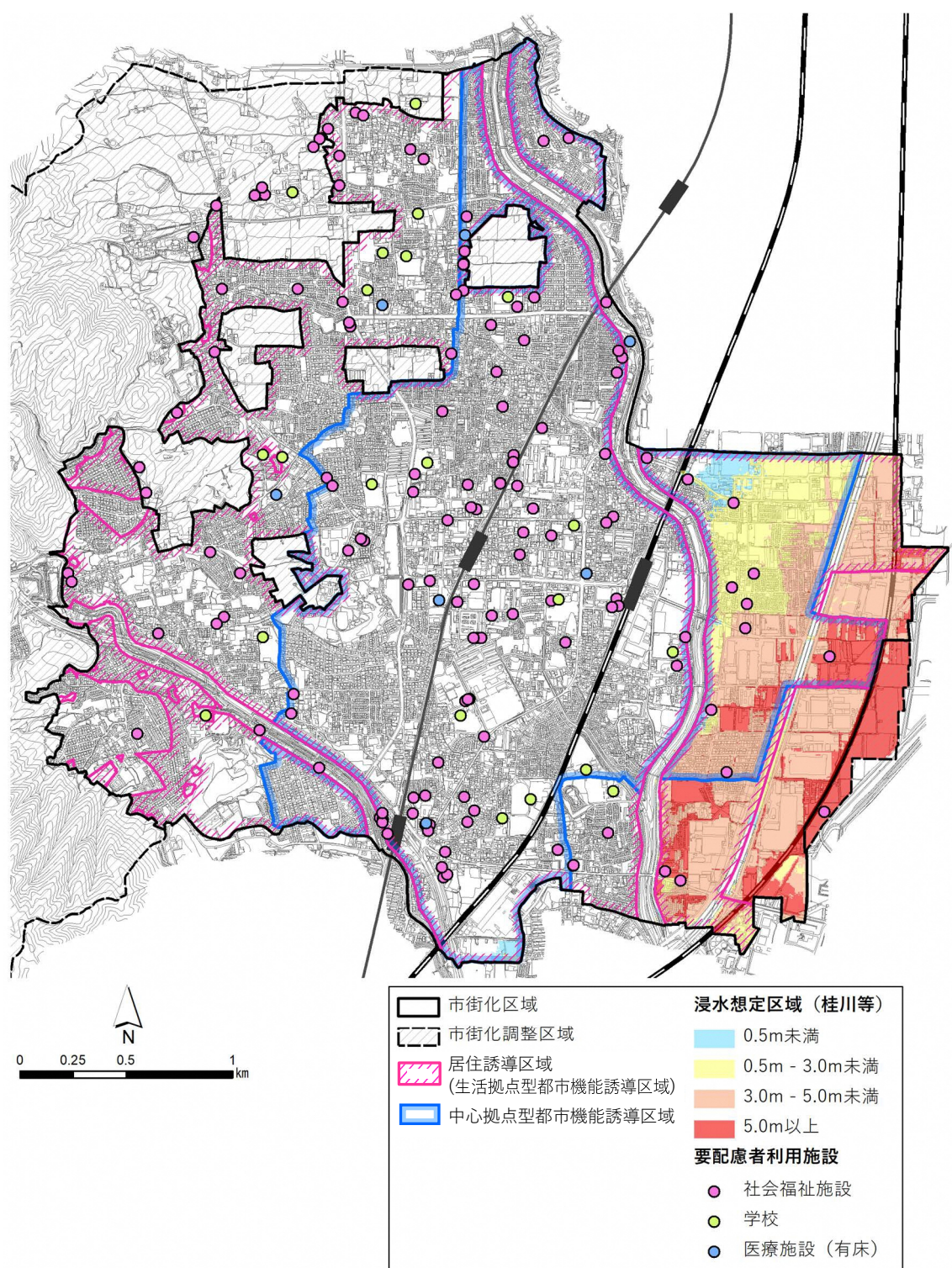
浸水想定区域（想定最大規模）× 要配慮者利用施設分布

- ・ 浸水想定区域内に要配慮者利用施設（社会福祉施設、学校、医療施設その他の主として防災上の配慮を要する者が利用する施設）が 41 施設含まれており、施設利用者に被害のおそれがあります。

■小畑川・小泉川等浸水想定区域



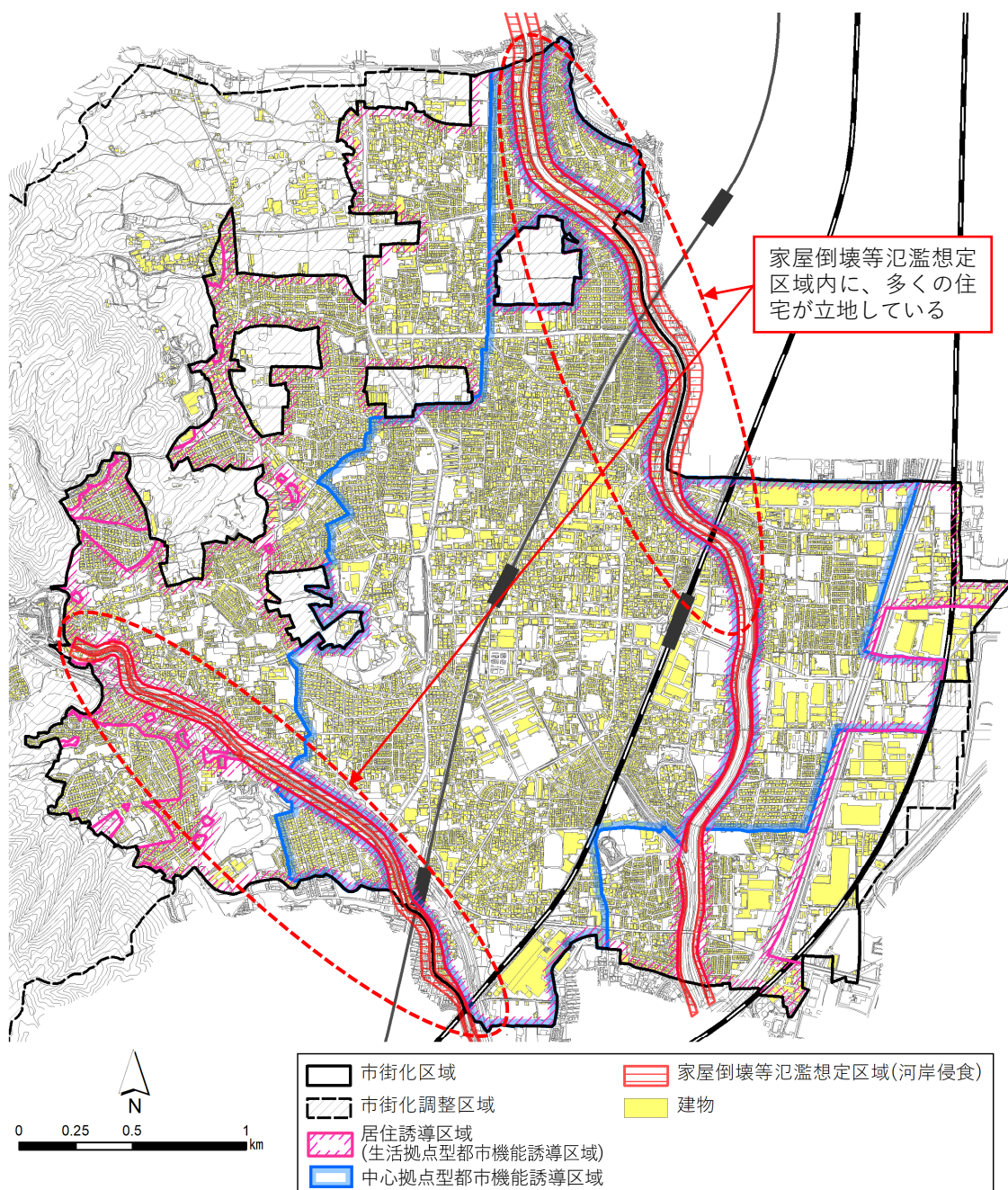
■桂川等浸水想定区域



b) 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）

家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）× 建物分布

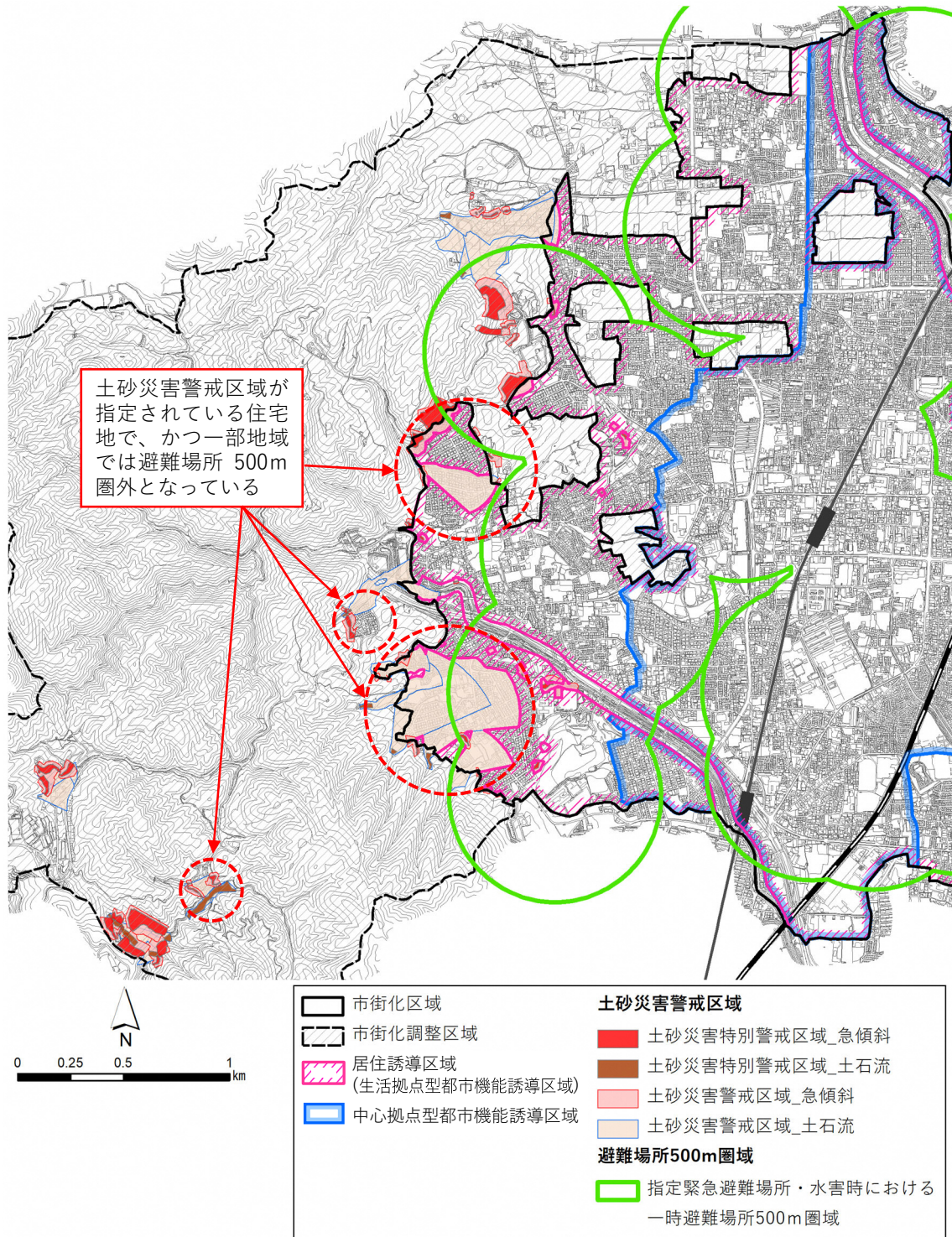
- ・小畑川・小泉川沿いに河岸侵食による家屋倒壊等氾濫想定区域が設定されています。区域内には、多くの住宅が立地しているところがあり、家屋倒壊被害が多く発生することが懸念されます。



② 土砂災害のリスク

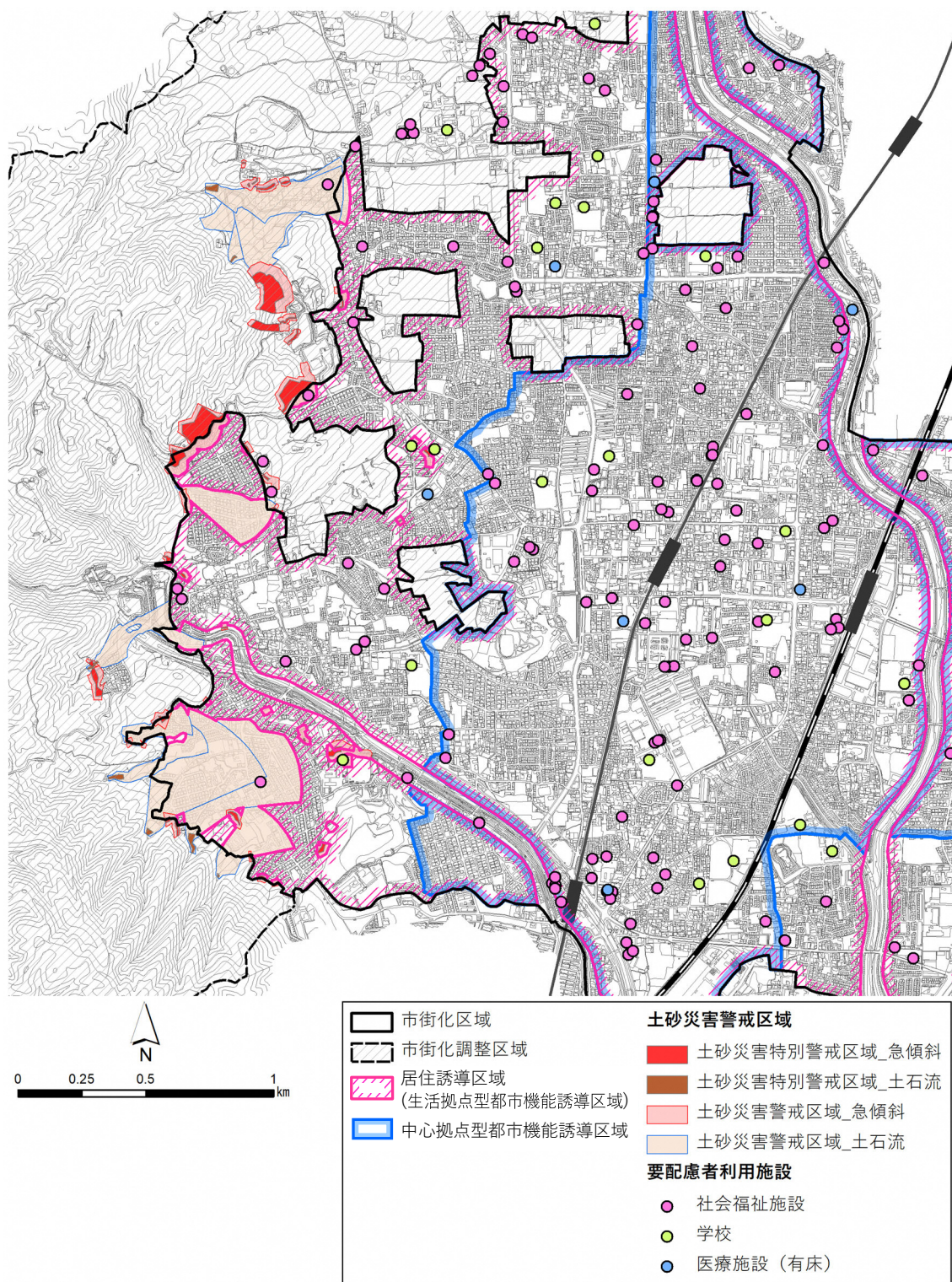
土砂災害特別警戒区域・警戒区域 × 避難場所

- ・多くの住宅が建ち並んでいる市街地西部には土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域が指定されている箇所があり、大雨や地震時に土砂災害が発生するおそれがあります。
- ・指定緊急避難場所までの距離が500m以上の住宅地があります。



土砂災害特別警戒区域・警戒区域 × 要配慮者利用施設分布

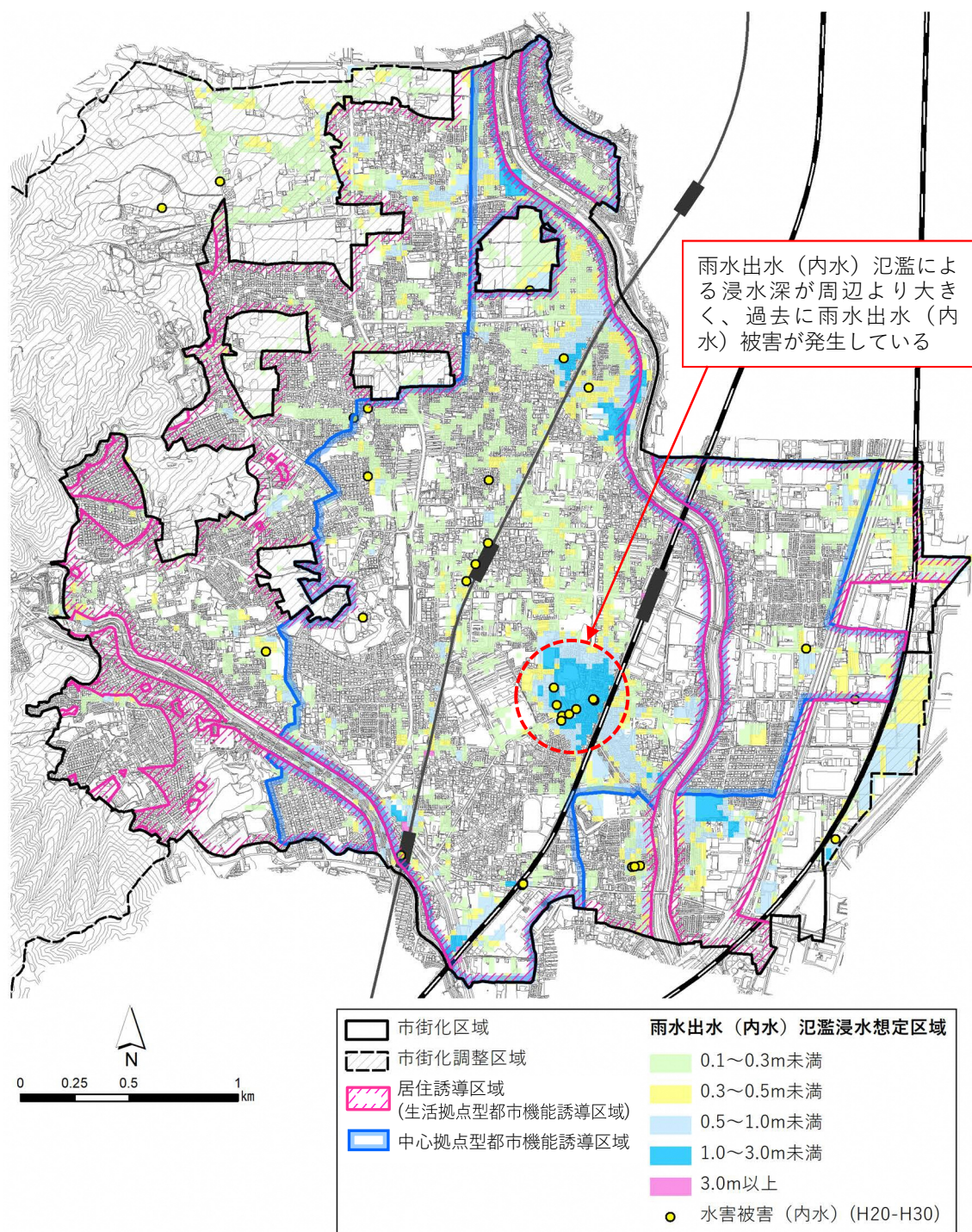
- ・土砂災害警戒区域内に要配慮者利用施設が7施設含まれており、施設利用者に被害のおそれがあります。



③ 雨水出水（内水）のリスク

雨水出水（内水）氾濫浸水想定区域×過去の雨水出水（内水）被害箇所

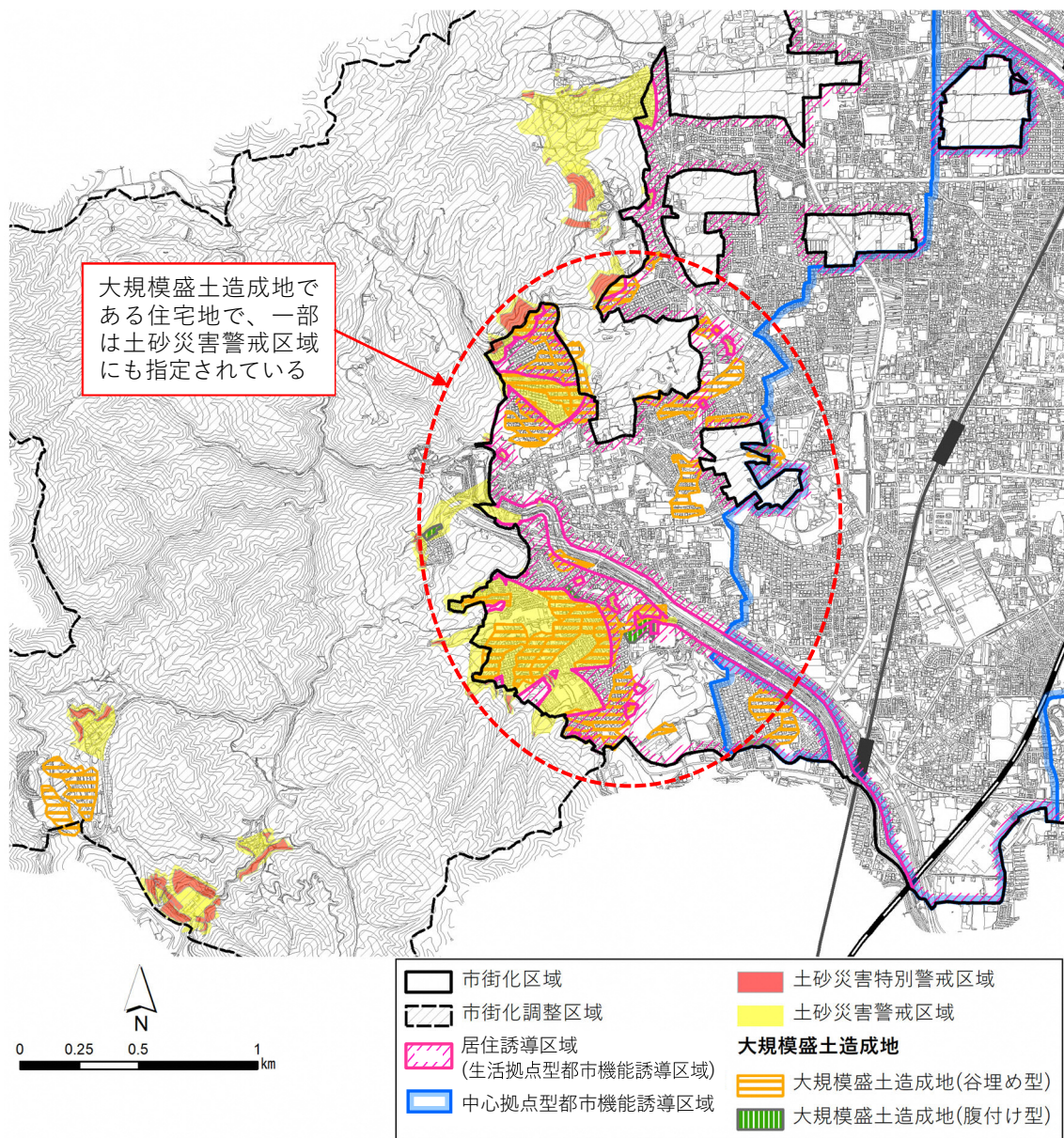
- ・雨水出水（内水）氾濫では浸水深 0.5m未満の区域がほとんどですが、市域全体に広がっています。
- ・JR 東海道本線横断部周辺では、浸水深 1.0m以上で、過去に雨水出水（内水）による浸水被害も発生しており、大雨時に雨水出水（内水）氾濫と外水氾濫が重なった場合、被害リスクが高まるおそれがあります。



④ 大規模盛土造成地のリスク

大規模盛土造成地 × 土砂災害特別警戒区域・警戒区域

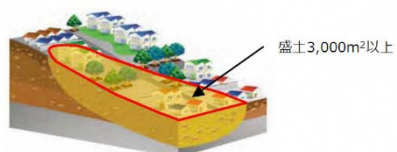
- ・大規模盛土造成地は、37箇所（うち居住誘導区域内 26 箇所）（平成 29 年 3 月 15 日京都府公表）あります。市街地西部の住宅地に分布しており、土砂災害警戒区域等と重複している箇所もあります。
- ・今後、大規模盛土造成地マップの周知を図るとともに、国・府と連携を図り、大規模盛土造成地の安全性の確認が必要です。



出典：京都府大規模盛土造成地マップ（平成 29 年 3 月 15 日京都府公表）

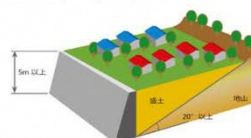
○大規模盛土造成地の要件

① 盛土の面積が**3,000㎡以上**



谷埋め型大規模盛土造成地（イメージ）

② 盛土をする前の地盤面の水平面に対する角度が**20度以上で、かつ、盛土の高さが5m以上**



②腹付け型大規模盛土造成地（イメージ）

出典：立地適正化計画作成の手引き（令和 3 年 10 月版）国土交通省